



医療機器を更新しました

放射線科

320 列 Area Detector C T

Aquilion ONE / PRISM Edition

2020 年 3 月から新しい CT 装置が稼働しています。
この装置は AI（人工知能）技術を用いた画像再構成法「AiCE」を搭載しています。AiCE は Deep learning を用いて分解能を維持したままノイズを選択的に除去する再構成技術です。低線量で撮影しても安定した高画質な画像を提供することができます。

そして最多列検出器を装備する CT（320 列）で 160mm

という広範囲を寝台移動させることなく 1 回転のスキャンで撮影することが可能になります。回転速度が最速 0.275 秒であることから小児や冠動脈など高速かつ低被ばくが望ましい患者さんや部位の撮影に有用です。また、1 回転 0.275 秒の高速スキャンを連続で行うことで血流や臓器、四肢などの動態や機能情報を可視化できます。



心臓・冠動脈領域 従来の CT では 5～10 心拍必要だったものが、1 心拍以内の必要な時相のみで撮影することができます。撮影時間は約 1/20 に、被ばく量は約 1/4 まで軽減できます。不整脈や息止め不良に強く、ベッドを移動させずに継ぎ目なく一度で撮影した画像なので、ミスレジストレーションのない極めて高品質な画像を得ることになります。

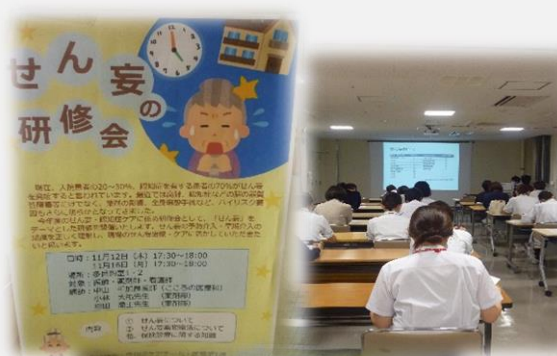
頭部領域 頭部全体を 1 回転で撮影することができます。動脈相や静脈相など狙ったタイミングの画像が得られ 3D 画像の作成も容易にできます。また、同一部位を複数回撮影することで血液の流れ、脳組織の血流量に基づく機能評価が可能です。特に、脳梗塞の急性期治療では治療開始までの時間をいかに短縮するかが求められます。CT 装置と 3D ワークステーションを使用し、短時間で脳の状態を正確に把握して脳組織の評価を適切に行い、そのまま血管撮影室に行き治療を開始することが可能となりました。



院内活動紹介～認知症対応力向上

認知症ケアチーム

当院では、令和 2 年度 4 月より「認知症ケアチーム」を立ち上げ、活動を開始しています。認知機能低下のある高齢患者さんは、BPSD やせん妄発症リスクが高く、職員の認知症対応力が求められます。当院では、看護職対象の認知症看護研修、全職員対象のせん妄研修・認知症サポーター養成講座の定期開催を継続しており、若いスタッフでも、認知症当事者の心理や家族ケアの大切さについての知識を深めるよう努めています。また当ケアチームは精神科リエゾンチームと連携し、週 3 回の病棟ラウンドを行い、認知症患者さんやせん妄の患者さんに適切なケアを提案しています。最近は感染対策上、家族に会えず混乱される患者さんが通常より増えておりますが、家族からの手紙や電話、自宅での写真や馴染みの物など、家族の協力をいただきながら、症状緩和に努めています。今後も、認知機能低下がある方も安心して入院していただける病院を目指して活動していきたいと考えています。



地域医療連携課（当日紹介・予約・診療に関する問い合わせ）

TEL: 075-212-6186

〔平日〕8時30分～20時30分 〔土曜日〕9時00分～13時00分



本年もよろしく
お願い申し上げます。



京都第二赤十字病院

地域医療連携だより かまんざ



東寺（京都市南区）
撮影 消化器内科医長 岡田 雄介

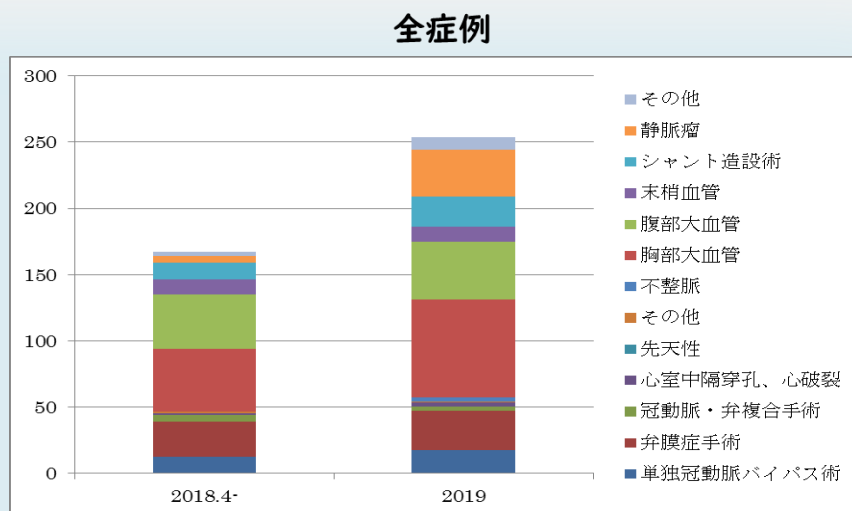


新任部長紹介



心臓血管外科部長
後藤 智行

卒年:平成12年卒
専門:大動脈疾患・弁膜症・
虚血性心疾患・低侵襲治療



令和二年四月より心臓血管外科部長を拝命いたしました。本来ならば地域の先生方には直接ご挨拶をすべきところ、紙面にて失礼いたします。

私は、平成十二年に京都府立医科大学を卒業後、京都府立医科大学、国立循環器病センター、福井循環器病院で心臓血管外科の修練を積みました。更なる研鑽を積むため、平成十九年よりマレーシア国立心臓センターに留学し膨大な数の手術を経験しました。帰国後は、京都岡本記念病院で部長として京都南部の医療に貢献してまいりました。平成三十年四月より京都第二赤十字病院に赴任後は、循環器内科と共に新生ハートチームを作り上げ、すべての循環器疾患に迅速に対応してまいりました。

生死に直結する循環器疾患の最後の砦として、ひとりでも多くの患者様のお役に立てるよう心血を注いで参りますので、これからも何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



循環器内科部長
井上 啓司

卒年:平成3年卒
専門:不整脈治療
心不全治療

夢は京都で一番ええ病院



私、井上啓司は2020年4月から5代目循環器内科部長を拝命いたしました。これもひとえに皆様のご支援の賜物であり、心から感謝申し上げます。私共は、まだ内科一部であった1970年代から循環器診療に着手し、1997年循環器科として独立し2012年に循環器内科の名称となり今に至ります。このような歴史あるグループを継承し、大いなるSPIRIT(意志)を受け継いだ様に思います。新体制となり、まずVISION(大目標)として「最善の循環器診療による社会貢献」を掲げました。

人は、心が原動力です。心が動けば人は前に進めます。しかし心臓病の患者さんには、しばしば「心臓」と「心」の二つのハートの不具合が併存しており、心のケアも重要です。心臓血管外科とも協力し、患者さんの歩幅に合わせ、一緒に歩いていきたいと思います。

そして地域医療連携の輪の中で、患者さんを包み込むような診療を目指します。「連携の輪」が「医療の和」となるよう力を尽くします。さらには未来に思いを託すため、次世代の人財育成を最重要課題として取り組みます。

心はどこまでも強くなれます。心を燃やし、精一杯自分の責務を果たす覚悟でございますので、何卒ご指導よろしくお願い申し上げます。



こころの医療科部長
前林 佳朗

卒年:平成5年卒
専門:精神科
心療内科

総合病院精神科としての
役割を果たしていきます。



2020年4月よりこころの医療科部長を拝命いたしました前林佳朗と申します。当院へは滋賀県の総合病院から2018年4月に赴任し、今年度で3年目となっております。

当方のような総合病院精神科には、身体診療科で入院中の患者様の精神医学的問題に関する診療(精神科リエゾン)相談が数多くあります。今年度は特に、世界的なCOVID-19流行のため、入院患者様も感染予防のために御家族との面会や行動の制限を強いられる状況です。その影響のためか、患者様が精神的な健康を損なわれるリスクが高まっているようです。結果として従来と比べ相談件数が激増しており、部長就任早々に我々を必要としていただいていることを実感する日々を過ごしております。

そうした入院患者様の診療、救急現場における自殺企図などの対応、そして地域のかかりつけの先生方からの精神疾患相談などが総合病院精神科の大きな役割です。微力ではありますが、当院が救急病院、急性期総合病院として地域に信頼していただけよう、その一員として頑張ってきたと考えています。今後とも、よろしくお願い申し上げます。



放射線診断科部長
兼放射線治療科部長
松島 成典

卒年:平成12年卒
専門:放射線診断・核医学



2020年6月1日より放射線診断科/放射線治療科の部長を拝命いたしました松島成典(まつしましげのり)と申します。私は平成12年に京都府立医科大学を卒業後、大学病院や関連病院にて放射線診断、特に核医学診療中心として研鑽を積み、当院へは本年4月に赴任いたしました。

私が医師になった2000年当時と比較して、放射線診断や放射線治療は長足の進歩を遂げており、当時は考えもしなかった精度の放射線画像や治療が現実のものとなっています。当院では最新の320列CTやMRI装置、SPECT装置を用いて質の高い診断をご提供しており、また強度変調放射線治療(IMRT)や定位放射線治療といった最先端の治療もご提供しております。

最新の技術を用いたより高度な画像診断、放射線治療により先生方の診療に少しでも寄与できるよう今後とも研鑽を積んで参りたいと存じます。まだまだ至らない点もございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



健診部長
西大路 賢一

卒年:平成3年卒
専門:消化器疾患・
内科一般・がん検診

各診療部門との連携により、健康管理に
関する医療サービスを安全に提供します。



このたび2020年4月より健診部長を拝命いたしました。私は1991年に京都府立医科大学を卒業、旧第三内科に入局、肝臓病学を専門とし、2007年当院消化器内科に赴任いたしました。2011年から健診センター専任となり、現在に至ります。当健診センターの歴史は古く、1959年に日本病院会の健保ドック指定を受けました。以来、生活習慣病予防とがん検診を中心に、健康管理に関する医療サービスを提供しています。病院併設型の強みを活かし、各診療部門と連携し、精密検査が必要な方には専門医による診断・治療をスムーズにお受けいただいています。従来から内視鏡検査による胃がん検診に注力し、早期発見に努めてきました。近年は、肺がん早期発見のための胸部低線量CT検査、心臓・大動脈疾患に対する心血管オプションにも力を入れています。これからも疾病の早期発見によって、受診者の皆様のより豊かな健康生活の維持を心がけてまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。